

☆私の意見

生きている自然を

街の中へ

吉田 啓正

△神戸市須磨水族館長▽



都会の中に沢山のけものや魚を持込んで多くの人達に見せる動物園や水族館とは、どういう所かと考えてみた。昔は、珍獣奇魚を見せて世界の広さや自然の不思議さを観客に訴える見世物的要素が強かった。けれども、今では世界が広いと思う人はまずいない。動物の生態は、テレビや映画の方がよほどうまく捕えて面白い。珍獣奇魚を小さな容器に押込んで、もの珍しさだけを売り物にする時代は過ぎたようだ。

動物園や水族館を訪れる観客は、動物の動きや表情から生き物の生きていることをじかに感じとる。それは、我々人間とそこにいる動物達が共通な先祖を持ち、同じ地球という環境に育って来たからなのだ。ただ、我々と彼等動物とは住む場所が違い、生活の仕方が違っていているにすぎない。奇妙な姿は、その動物が生きていくのに一番都合のいい恰好なので、つまりは生活の仕方の結果ということになる。だから、動物園・水族館は、魚を含めた野生動物のさまざまな生き方を見せる所であって、動物そのものを見せる所ではなかったのだ。ここから出発して、動物のおりや水槽の構造、展示の仕方の計画をねり直せば、観客にとって動物がもっと近いものになってくるはずである。そして、人間と動物達の間に通ずる生きていることの共感を土台に、「この連中と共有する地球の自然を守ろう」というところまで観客の気持を高めることができるなら、動物達を街中まで運んで来た甲斐があるといえよう。

今年は須磨水族館開館二十周年に当り、記念に「森の水槽」を造ることになった。ここでは水槽室の建物を緑地の中に埋め込んで、観客は森の中にはいっていくような恰好で観覧室にはいる。二つの大型水槽の一方には、ビラルクという体長二メートルを越す魚を入れることにしているが、この大魚が水面上へ飛び上がるさま、餌をとる時に示す精悍なつらがまをいを見せようともくろんでいる。生き生きとした自然を都会に持込むこと、それがこれからの動物園・水族館の在り方だと思ふ。

こうべに神戸らしい店を…

KOBE
NIKKEN



店舗装備のプロフェッショナル

(株)神戸日建

本 社 神戸市葺合区御幸通3丁目2-20
〒651 ☎ (078) 251-3525 (代)
東 京 東京都杉並区成田東5-39(201号)
営業所 ☎ (03) 393-1577 番



UCCカフェメルカード、サン コロール (ジョイプラザ大丸地隣)

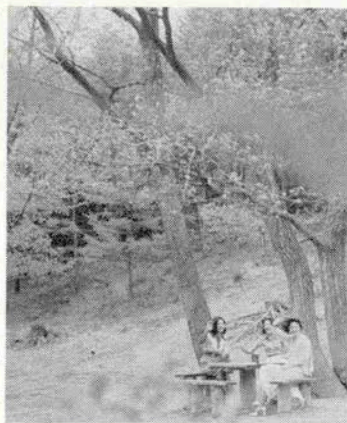
□特集 / 随想
KOBE 私鉄沿線物語

神戸電鉄

神鉄沿線の緑

河原 巖

(元神戸市立教育植物園長)



神鉄沿線も開発の波は押し寄せているが、まだまだ豊かな自然がいたる所に保存されていることを車窓から望まれる遠近の風景がよく証明している。従って手軽に何処で下車しても数時間あれば、新鮮な山野の風物を楽しむことのできる便利な線である。

そこには山あり、池沼あり、川あり、田園あり、時には奇岩怪石がひそんでいたり、野仏や道標などあり、というように美しい景色や地形の観察を楽しむことができ、更に地上を飾るいろいろの草木が季節によって色彩や姿を変えてゆくながめ、ここを住みかとする昆虫や小鳥の動きなどに、思わず解放感と自然美に浸らせてくれる期待がある。

ここに特異なこの季節の美しい眺めを楽しめる日帰りコース例をあげて見よう。

粟生線の西鈴蘭台を過ぎて藍那



駅に近く、左側に草木の茂った溪谷が見える。大きい艶やかな葉のイワタバコが岩壁に着生し夏には葉の上半分が白色に変わるツル性のマタビもその辺一帯に茂っているなど、奥深い山地の趣きが展開している。

藍那駅を下車して神戸市名木モミの大樹を尋ねたり、木津への山路をイチゴや山菜摘みをしたり、キジムシロ・ウラジロノキなど無数の草木の咲き盛る中を行けば、ショウブ・フトイ・ジュンサイなどの茂る池や、素晴らしいウツギの群生やレンゲ咲く水田、若葉にはえるアベマキの林など、快適な緑風の耕地山林風景を満喫することができ。木津駅から西進して栗駅付近一帯は今イチゴのシーズンであり、次の押部谷又は緑ヶ丘

駅で下車すれば、眼前に雄岡・雌岡の縁結びの神を祭る形のよい小山が並んでいる。頂上での播州平野の眺望は素晴らしく、かつてはギフトチョウも生息し食草のカンアオイやミスミソウが豊富に自生していた山であった。眼を三田線に転じてみよう。箕谷駅より西二軒余の所に無動寺がある。境内の広い雑木林の散策路をたざると、思いがけなく池を見下す所に出る。ナラやクヌギ・ツバキなどを主木とする新緑に映える樹林一帯が、池を中心に奥深い静寂境を展開して統一され、見る人に神秘感を抱かせている。

神宮皇后伝説の地唐櫃台奥も、明るい山林と有野川の清流、一帯の耕地、鮮やかな新葉の盛り上がる神社林、古風な伝統のしのばれる村落のユズリハなど、目を楽しませてくれる地域が続いている。その上このあたり一帯はカワガラス・カワセミなど珍らしい野鳥の観察や若草摘みもできるなど家族向けの行楽地としても好適である。更に北上して道場南口駅より西南十軒の所に石峰寺がある。寺の背後にはモミ・シイ・ムクなどの大樹を始め様々の木々原生林を形成し、訪れる人に身のひきしまる思を抱かせている。付近一帯は新興植木生産地として発展している。序に見て廻るのも一興であらう。

□特集 / 随想

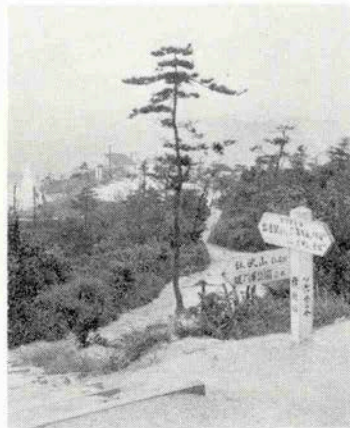
KOBЕ私鉄沿線物語

山陽電鉄

折々の沿線賛歌

神栄 起郷

〈サンTV 報道部副部長〉
 〈姫路市の形町 湊神社宮司〉



テレビの映像で私達はよく経験するが、風景に水のシーンが挿入されると、何となく安らぎをおぼえるものである。その意味で山陽電車の車窓からは、播磨灘や明石海峡が見えかくれし、市川、加古川の両河口も眺められるなど、その風情はまたひとしおである。

そして、水ぬるむ季節ともなると汐干狩が始まる。沿線の西端にあたる新舞子につづき白浜、的形の両汐干狩場もオープンする。日曜、祝日などは、その八割がたが阪神間からの客で大賑いだ。潮風いっぱいの大自然のなかでのんびり過せるのは、もう数える程しか残っていないからだろうか。それでも春たけなわのころは各地の花ごよみが楽しみである。さくらは須磨寺と大池遊園地、須磨浦公園、明石公園と人丸山、姫路城と姫山公園、ボタンは魚住の薬師院、ツツジなら須磨浦山上、明石

公園、鶴林寺公園、姫路の名古山霊園、フジは魚住の住吉神社……と枚挙にいとまがない。さらに、ノビル、セリなど食べられる野草を求めて、つみ草ハイキング（的形北部台地）も興趣が深い。

さて、春から夏になると海水浴である。阪神間唯一の須磨は別格として、前記三つの汐干狩場が、そのまま海水浴場に移行する。そして水を求めて神戸方面からどつとまた客が群れ集う。

山陽電車の前身、明姫電車が明石―姫路間に開通したのは大正12年8月19日である。当時の沿線風景と今とはおよそ比べものにならないだろうが、秋の浜風が吹きわたるころ、地鳴りにも似た太鼓の響きがきこえ始めるのは今も変

らない。秋祭りの準備をつける屋台の太鼓の音である。町の辻々には祭提灯が吊され、10月の播磨路は祭り一色となる。それは飾磨祭りに始まって高砂、荒井、曾根、的形、大塩、白浜（灘のけんか祭り）、夢前川、網干、東二見……と連日、秋祭りが続く。播磨の国は古くから開けた豊かな土地である。そこに人々によって育まれた祭例・行事は古い形のまま伝えられたものが多い。特に高砂、大塩、的形、白浜、飾磨、網干の秋祭りにみられる屋台はみこし屋根に四本の伊達縄、内蔵の太鼓四人がたたき数十人が練る豪壮華麗なもので、日本でも特有のものといえる。

さて、祭りが終って周囲に静謐が戻ると県花のじぎくが花開く。のじぎくは大塩を中心として石の宝殿からの形へかけて山野いたるところに生い茂っている。仁徳天皇の御代に百済から伝えられたものといわれ、一千数百年にわたる野生の歴史を有するものである。

最後に私の山電利用時間は片道約50分。いつも思うことながら「庶民」の電車であり、庶民向きの沿線である。釣りファンにとつては駅から近くて便利なおところに好釣り場が点在し、最近一部でチームを呼んでいる「バードキャッチング」（探鳥）も楽しめるそうだ。

□特集 / 随想

KOBE私鉄沿線物語

阪急電鉄

青い鳥高原の虹

織田 喜久子

《詩人・詩誌「響」発行》



青い鳥高原という名をきくようになった。阪急沿線の仁川から甲山・北山公園一帯の丘陵で、空から見ると、鳥が翼をひろげたような地形だという。戦後ひらかれた仁川ビクニックセンターは今ではよく知られているが、昨春この隣りに仁川ワイールドアスレチックというのが出来て、丸太やロープと格闘する若者たちで、連日賑わっているらしい。仁川のすぐ西南にカブトの形をした独立峯・甲山があり、北山公園に続いている。五月の連休のあと、ぶらりと甲山森林公園をたずねた。この辺りは、もうすっかり大自然のふところだ。

正面入口をはいるとすぐ大きな池で、家族づれやアベックが数組のんびり休んでいる。中年の男の人が、大きな袋から何か取り出して投げはじめると、紺碧にしまっていた水面が波立って色とりど



りに大小無数の鯉が集まってきたのには驚いた。岸边にうす紫の燭をかがけて桐の花が咲いていた。

明るい高原道をセンターゾーンへ向かう。ツツジをはじめ、ウツギやバラ、コデマリなどが咲き競っている。白い藤の花かと見まがうのは満開のアカシアだ。県政百年記念に造園されてからちようど十年になるので植樹も落ちついているが、何よりも見晴らす山なみが自然のままに深く息づいているのが嬉しい。ウグイスが鳴いている。センターゾーンは西欧の庭園風で、甲山を真正面に、白い彫像が噴水の霧をまとい高々とそびえている。野外彫刻展ということである。道の両側に並んだ石彫も世界各地の石の味わいが面白い上に、彫刻

自体がおおらかな抽象で、自然の景觀に融け合っていて楽しめた。

甲山の背に夕陽が傾いて一段と輝きを増したとき、突然、噴水のうしろに七彩の橋がかかった、まるで夢の中のように。一昨年、信州の奥黒部で、久しく忘れていた虹をみて驚喜したが、こんな所で虹に会おうとは。子供たちは、はしゃいで駆け回り、あわててカメラを向ける人もあった。ここから西へ甲山山麓を迂回すると程なく神呪寺の山門に出る。百余の石段を登って参詣する。ご本尊は日本三如意輪のひとつとして知られた観音さま(重文・秘仏)だが、弘法大師も祀っており、甲山大師の名で古くから信仰されている。阪神間がパノラマのように眼下にひろがり、ひと撞き二〇円の鐘の音が、青い鳥高原をわたってゆく。山門からまっすぐ下へ、大師みちと呼ばれる旧参道を甲陽園へおる道は舗装はされたものの車も人もほとんど通らず、両側の丘陵には低い松と山ツツジの間に露岩がそびえ、岩上にちよこんと坐ったお地藏さまや、木蔭に肩をよせ合った小さな石仏群も見えて、十年前とほとんど変わっていないのは意外だった。阪神間は、海が次々と埋めたてられてゆくが、山手の阪急沿線にはまだ野趣が残っている。失いたくないものだ。

□特集 / 随想
KOBÉ私鉄沿線物語

阪神電鉄

阪神電車と処女塚

大村 利一

(株)椿本チェイン会長



券の発売所があった。この東明停留所のすぐ東、軌道の南側に古い塚があって、それを処女塚または求女塚（もとめづか）と呼んでいた。万葉集には葦屋の菟原処女（あしのやのうなひを）として、三人の有名歌人の作品が収録されている。田辺福麻呂歌集出、高橋蟲麻呂歌集出、大伴家持である。現在この万葉の歌に詠まれている塚は果してどの塚であろうか。候補地が四つある。

第一、東明の処女塚、第二、呉田（こでん）の求女塚（住吉）、第三は味泥（みどろ）の求女塚（灘区味泥町三丁目）、第四は脇浜の処女塚（葦合区脇浜三丁目）である。東から呉田、東明、味泥、脇浜と約五キロ位の範囲にこれら四つの古墳があり、何れも一女を争う二壮男の哀恋物語を伝えていゝる。万葉に詠まれ、大和物語によつて流布され、謡曲求塚また森鴎外の戯曲生田川となつて世人衆知の伝説である。これがすべて阪神電車の線路から程近い場所にこれらの遺跡があったが、現在はどうなっているだろうか。

蟲麻呂の長歌の反歌のみを紹介しませう。

葦屋の菟原処女の奥つ城を往き来と見ればねのみし泣かゆ

墓の上の木の枝靡けり聞くがごと陳奴士にし寄りにけらしも

大正七年（一九一八）四月から大正十二年（一九二三）三月までの五年間、私は兵庫県立第一神戸中学校（通称神戸一中、現神戸高校の前身）に阪神電車で西宮の自宅から通学した。その当時の神戸一中は布引の滝から流れる新生田川（通称新川）が国鉄並びに阪神電車の鉄橋下を潜つて葦合の海に注ぐのであったが、その新生田川の西岸そして国鉄のすぐ北側に位置していた。現在はその東南隅に生えていた楠のうちの一本だけが残り、小公園的に保存されているのみである。当時の中一の制服制帽は総てカーキ色、ゲートルや編上靴まで同色であり、ただ教科書、ノート、弁当を包む風呂敷（カバンは使用しなかった）だけが白色の木綿、これを脇下に抱えて通学したのであった。私は西宮東口から乗車、新生田川で下車して一中に通った。記憶を辿つてその駅名



（停留所名）を誌すと、西宮東口―西宮―香櫨園―打出―芦屋―深江―青木―魚崎―住吉―御影―石屋川―東明―新在家―大石―岩屋―脇ノ浜―春日野道―新生田川―三ノ宮―神戸（滝道）であつて、新生田川で下車したのであった。今日のように急行電車などはなかった。上級の頃になつて大阪―尼崎―西宮―御影―神戸と区間別に1、2、3、4と番号を付けて運転するようになった。例えば124というのは大阪―西宮間各駅停車、西宮―御影間は急行無停車、御影―神戸間は各駅停車という方式であつた。

ところでこの第4区に東明という停留所があり、そこには尼崎と同じく車庫があり、また通学定期

あなたのサロンに
なさいませんか

オリエンタル レディスクラブ

会 員 募 集 中



- この会はオリエンタルホテルをご愛顧下さる女性
によって組織されます。
- 会費はお1人年間10,000円（ホテル利用券5千円
を含みます。）
- ご入会と同時に会員証を発行いたします。
- オリエンタルホテル・六甲オリエンタルホテルをご利用の際、10%の割
引がございます。その他いろいろ特典がございます。
- 随時会員だけの特別企画（海外旅行、国内旅行、たべ歩き会、料理講習
会……）レディスクラブにふさわしい催しを主催いたします。

詳しくは

オリエンタルホテル 内 レディスクラブ事務局

神戸市生田区京町25 ☎ (078)331-8111

事の始まり 神戸が起点

ハナヤ勘兵衛 〈写真家〉

事の始まりは神戸が起点、新興写真と学生写真発祥のところである。

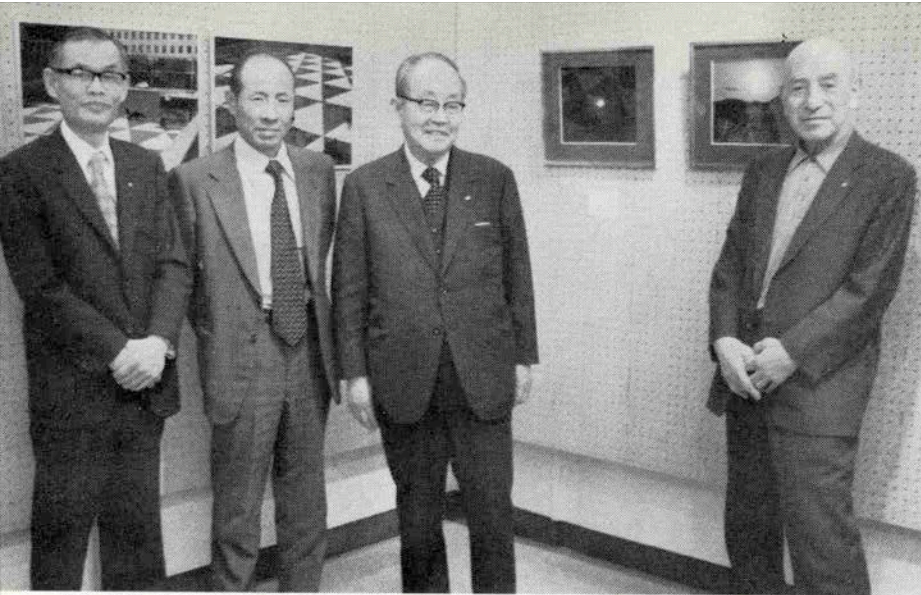
「総ての作家に敬意を払ふ。然し我々は、新しき美の創作、新しき美の発見を目的とす」これは昭和六年芦屋カメラクラブ年鑑、中山岩太先生の巻頭言である。

当クラブの新興写真運動は、朝日新聞神戸通信局長、朝倉斯道先生により広く朝日新聞紙上に、またアサヒカメラ誌で全国に紹介されていた。朝倉斯道先生は昭和三年三十五才で通信局長に就任され、村山竜平社長が先生のため異例の披露宴をオリエンタルホテルで催し、「まだ若い局長だから、よろしくお願いします」との丁寧なアイサツがあつて招待客を驚かせた。先生は新たに美術の諸連盟結成にも力をつくし、展覧会、音楽会なども催されたり、会合にも列したりして酒飲み友達も次第に数を増した。元來が野人、三宮界隈の常連であつた。

昭和九年、型にはまつた写真界とは全く次元を

異にした学生写真群が、当時の新しい小型カメラを使いその写真展を神戸のデパートで開催した。特に銘記したいことは、このとき朝倉斯道先生が朝日新聞に大きく五段抜きの写真と温い激励の言葉と長い紹介記事を書いて下さったことである。こんなことはこれまでに全くなかつたので、学校当局や父兄の方が驚喜されるハプニングになつた。「学生のお役に立つように」縁の下での力持ちを勤めていた関係で、私にまで父兄からお礼を言われる廻り合せになつた。それまでは若干、大人の道楽視されていた写真が家庭内で良い教養として歓迎され、奨励される方向にかわつてゆく機縁となつたのである。

昭和十年一月、大阪朝日会館で関西学生写真連盟展（参加23校一段がけ四百点、早慶法の賛助出品）へと発展し、朝日新聞社に事務所をおき十六年まで連盟写真展を盛大に開催した。そのなかで昭和十三年夏には満鉄の招待で二〇日間、新満洲撮影旅行に行った。汽車、汽船、馬車、旅館から



作品「明月」の前での中司清カネカ相談役（右から二人目）右端が筆者（サNSTOアギャラリーで52.3.30）

現地案内まで到れり尽せりで、大連から船で十三名が神戸の港に帰った。この時は作品も良いのが揃い「カメラ新満洲」グラビヤ版が朝日から出版された。こんな風に学生写真の新しい運動がアサヒカメラ誌を通じて全国へ拡大し浸透していったわけである。（編集長は早大OB松野志気雄氏、酒と写真を愛す熱情家）この学生と写真について、下村海南先生（当時の朝日新聞副社長）から丁重なごアイサツをいただいた感激は私の良い想

い出となった。

その学連、甲南高校写真部に西村雅貴がかんさんがあり、昭和二十二年、三人で小型カメラをつくることになった。雅貴氏手造りのコーナン16は朝日新聞で紹介され、貿易庁などからほめられたので、外貨を獲得しようとはばかりにカギ工場に部品を外註した。ところが精度が悪くて使いものにならず気力旺盛、ここでやめられるカイと頑張り通して傍迷惑たがひづをかけることが多かった。そのときの発想が現在コダックの110型カメラで実現されているのと思うと「あの時にもう30年先のことをやっていたのだナァ」と友人が言ってくれる今日此頃である。

（西村雅貴氏は西村旅館の御曹子、本誌四月号で私が書いた「新帰朝の大匠、大将が宿る旅館」である）

寮きやうの会という「写真をされる財界人」の集まりがある。そのお一人に中司清カネカ相談役が居られる。「健康のためのカメラ散策である」と言われ、その詩情豊かな作品に心が洗われる。春、花、朝、海辺、秋色、奈良、寺院の庭、雨や雪の景色、夕焼け空などバラエティに富む。どうやら「今日は雨やからやめとく」と言ったことではなく、予定通りにお出かけになり、淡々と無心の境地で写しておられるように思われる。「うちの相談役は元気でっせ、カメラを持ってお寺の石段を上ったりおたり、石ころ道をアチコチ歩かれてネ、運動になりますナァ」と秘書役が言われる。

「写真がこれようにお役に立ち、作品が生まれてあとに残る」

私はこれが嬉しい。

□神戸女学院と神戸△5▽

岡田山移転のころ

高道

基 △神戸女学院大学教授▽

え・伊藤慶之助

現在西宮市岡田山にある女学院が「神戸」という名称を冠していることをいぶかしむ人がある。時たま所用で女学院を訪れる人が新幹線で新神戸につき、そのあたりをウロウロしたという話をきくこともある。岡田山に移転してから四十数年、

それでも女学院はいまだに「神戸」の中に息づいているし、この歴史はこれからも変わるまい。明治初年、女学院の創立以来その歩みは神戸の町や文化と不即不離の関係にあったというひそかな自負が「神戸」の名にこめられていると言える。しかし、神戸の町の発展が女学院をこの地から去らしめることになったのは一寸皮肉であった。

第一次世界大戦の勃発（大正三年）は、国際港都神戸の位置を飛躍的に高めることになった。いわゆる戦時下の好況がおびただしい人口の流入を生み、大戦終結時（大正七年）には神戸の人口はほぼ六〇万人に達しようとしていた。それに比例して女学院に在籍する生徒の数は激増し、大正三年二八〇名、同七年四百名、同十年には五八〇名に及んだことを学院史は記録している。山本通り三千五百坪の敷地が次第に狭隘を告げ、大正十五

年を期して校舎移転が議にのぼった。大学部設置のヴィジョンも芽ぐんでいた当時である。しかし、神戸の市街地に候補の地を求めることは不可能に近かった。地価の急騰のためである。

このため草創のときより女学院の経営をサポートした米国伝道会は市外移転を示唆し、米国中部婦人伝道会では七万ドルを目標に募金活動が始められた。人々の心には父祖の地を去ってカナーンへの旅に上ったアブラハム一族のような決意がふとよぎったことであろう。

この時期、同窓会の發揮したエネルギーについても特記しておきたい。家庭婦人の地位が相対的に低かった時代に、彼女たちははじめ候補地にあてられた明石大蔵谷に二万坪の土地を購入、さらに大学部建築のための募金を継続している。

しかし、校舎建設の募金は日米双方において難渋した。大戦時の好況はすでに去り、関東大震災（大正十二年）が日本の経済界に大きな打撃をあたえたためもある。おまけに十三年七月、米国議會を通過した「排日移民法案」は日米間の関係を大きく冷却させてしまった。院長デフォレストが



十年の歳月が流れたわけである。旧尼崎藩主松井氏の別荘地約二万坪と隣接地が購入され、翌六年定礎式が行なわれた。近江兄弟社創立者、ヴォーリスの設計になる南地中海様式、クリーム色の外装で統一されたしような校舎がやがて誕生する。山本通りからそてつ、いちょう、ほだい樹、ヒマヤ杉、紅白のつつじの記念樹が移植され、今日ここを訪れる人々の目を楽しませているが、それはせめてもの神戸時代への愛惜の表現だったに違いない。

この法案通過をキリスト教精神に反すると烈しく抗議したというエピソードがのこされたものの、結果として大正十五年を期しての移転は成らなかったし、明石校舎の計画も頓挫した。ここにかけた同窓会の努力は幻となってしまったが、その土地は学院に寄贈され、昭和四年未曾有の世界恐慌下に遂に募金目標を達成した米国側に対する感謝の言葉とならんで現在講堂入口の壁面に一枚の記念標としてその努力が証しされている。そこには「神戸女学院同窓会ハ大正十年土地ヲ寄贈シ、以テ現校舎ノ建設ヲ可能ナラシム、茲ニ謝意ヲ表ス、昭和八年」

とある。今ここをすぎる人は多いが、ここにこめられた当時の同窓生たちの無量の思いを知る人は少なくなかった。

移転候補地の選定はその後も二転三転するがそのことについて書く煩はさげよう。現在地岡田山の決定は昭和五年であるから、実に移転決定後、

昭和八年春、全学院はここに移転し新しい時代が開くのだが、女学院の希望とはうらはらに当時の世情はまことに暗い方向に傾いている。日本の国際連盟脱退はこの年であるし、自由な言論抑圧のメルクマールとして知られる京大滝川事件がおこっている。移転祝賀のパーティの写真を見ると大きな日米の国旗が天井からつり下げられているが、こうした光景もやがて姿を消す運命にあった。「国体明徴」のかけ声の下、女学院の中庭に勅語奉安庫が設けられ、デフォレスト女史はやがて帰国、かわって初の日本人院長畠中博が就任する。「紀元二六〇〇年」奉祝行事が全国を渦いていた中であつた。畠中院長は硬骨の人として知られている。ある日「戦争にもひとつだけいいことがある。それは愚者でも英雄になれることである」と皮肉って、当時の特高警察を刺戟し、その「要注意言動」のリストにのるが、それでも戦時中、徴用された講堂から聖書を下すことを拒みつづけた。ちよつぱり女学院の抵抗を示した心意気とも言えるだろうか。

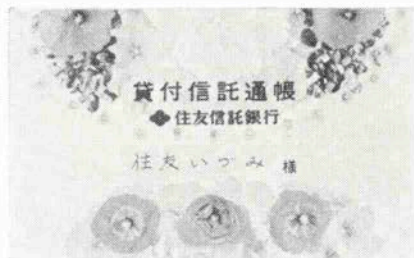
前掲掲載の木村得治は木村徳蔵のまちがいでした。おわびして訂正します

ふみきろう このボーナスで

住友の貸付信託

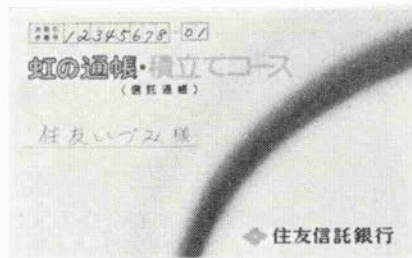
5年もの**7.52%** 2年もの**6.20%**

- 元金保証 ■お預け入れは1万円単位
- 募集締め切り日より1年以上たっていれば
期間に応じた利回りで中途換金もできます。



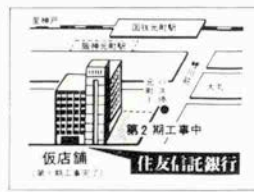
虹の通帳 積立てコース

- お預け入れは1回5,000円からいくらでも
- 期間は5年以上で自由に決められ満期日に
まとめて受け取れます。
- ボーナスで積み増しをしたり、積み立てを
休んだり、いつでも予算に応じて自由にお
預け入れができます。



 **住友信託銀行** 神戸支店

もとまち大丸西向い ☎(078)321-1131



おかげさまで第2期工事は9月に完了、11月には第3期工事が完了して全館完成のはこびとなります

□ある集いその足あと

創作人形

サークル たんぽぽ

藤元令子

△創作人形サークルたんぽぽ主宰▽

終戦直後の暗黒の時代に、子供の頃から好きだったお人形作りの手ほどきを故曾山正子先生に受け生活の中にうるおいと明るさを見出しました。身近かなものを自由に使い、思うままに表現する楽しさに同好の友が増え、先生のお許しを得てその輪が何時の間にか大きくなりました。昭和27年10月、トア・ロードにありました兵庫県社会事業会館で初めての作品展を開いたのです。それが大変な反響を呼び、第2、3回を同所で行ない、第4、6回を三越神戸店で開催しました。ちょうどその頃兵庫県文化賞を受賞された故森月城画伯のお誘いを頂き、ご一緒に個展を三越で開きました。従来の人形というイメージと大変違ったユニークな作品と新聞紙上でもたびたび紹介されました。

31年2月には、日本の文化をヨーロッパに紹介するためマリスト・ブラザース・ハイスchoolのブラザー・ヴィンセント師がスベイ

ン帰国に際して集められた種々の日本に関する資料のなかに、子供が20人程でおみこしをかついだ『おまつり』と題した作品展のお人形も加えられました。また何度かアメリカ親善の使者として私達の代りに渡米したお人形も沢山あります。昭和33年、第8回作品展を機にグループを『サークルたん



いつも和気あいの教室風景（KCCで）

て頂いたり、明石城で開かれた菊人形展に私達の人形のコーナーが設けられたこともありました。そして第14回作品展は、52年3月17日から一週間、さんちか広場で開くことができました。タイトルのアーチをくぐった瞬間、別世界へ足をふみ入れたような楽しい雰囲気体が包んでゆく思いがしたと多くの方々からお声をいただきました。

私共会員は年令巾も広く、高校生から、おばあちゃま、男性も交えて市内はもとより東は天津、八尾、西は淡路、相生のあたりまでと遠方の方々も迎えております。グループのお互いのコミュニケーションも暖かく、長くは二十年以上も続いている方もあります。私達は高級芸術品というよりも、見る人の心を暖かく、楽しくさせるような人間味のあるもの、庶民的な誰にでも作れる身近なものと願っております。手作りの人形を受取る誰もがそれぞれの個性を思いのままに表現して作るプロセスの楽しさを味わいつつ、より良い明日を目指して歩んで行きたいと願い、努力いたしております。

■教室案内■

神戸新聞会館文化センター（KCC）

第2・4火曜日、午後の部、夜の部

室2211-9557

須磨公民館

毎月2回 水曜日

室731-4341

●特集 私鉄沿線物語



△沿革△

神戸電気鉄道株式会社は大正一五年三月二十七日、神戸有馬鉄道株式会社として創立した。

『神戸電鉄五十年のあゆみ』によると昭和三年十一月二十八日に湊川―有馬温泉間の営業が開始した。「湊川―有馬町間の有馬線は峡谷を縫い（略）そのうえ、線路は海拔三五七メートルの有馬基点から二〇〇メートルないし三五〇メートルの高い山間部を走り（略）昼夜兼行の建設工事は全く至難であった」とあるように開通までには幾多の困難があった。

昭和十三年には鈴蘭台―三木間が全通し、二十六年には三木―小野間、翌年には小野―粟生間がそれぞれ開通、四十一年には鈴蘭台―有馬口間の複線工事が完成、四十三年に神戸高速鉄道の新開地乗り入れが開始した。そして昨年、

神戸電鉄

緑と史跡の宝庫を走る

＜話を伺った方々＞



室井緯さん 名生昭雄さん 西田正史さん
＜姫路学院女子短大教授＞ 論＞ 論＞ 神鉄観光事業部
事業課長＞



阪下博也さん
＜神鉄観光事業課＞

第十一代社長中田大三氏の下で創立五十周年記念式典が行われた。

△エピソード△

名生さんは昭和十三年から神戸電鉄を利用して、昭和十九年鈴蘭台から長田まで通学していた頃のこと。

「当時の車輛は連結器でつないであつたんですが、車内は混んでいるので外側に乗ってたんです。ちようど、連結器の上に乗ると運転手と向かい合う格好になるんですね。それで、おい、お前、邪魔だ、チョット頭下げとけ、なんていわれてね。連結器の上に高下駄はいて乗って、雨の日は傘をさして電車に乗っていましたなあ……。何偏か命を落とすようにもなつてね。旧制高校のカバンを肩からさげてるので揺れるたびに電柱に当たって危うく落ちかけたことが何偏あったか分らないですね」

今では考えられない話だ

ところで神戸電鉄にいわゆる乗客気質のようなものはあるのだろうか。

「ザックバランにいったら田舎電車だから、永く乗っているとそういうローカル色に対する乗客同士の連帯感が出て来ますね」（名生さん）ということ、それは反面、どうも乗客のマナーが悪くて……ということにもなる。が、それも庶民性があり、気安さがある証拠なのだろう。

△沿線△

神戸電鉄は新開地を基点に鈴蘭台を経由して有馬温泉方面、三田方面、三木―小野―粟生方面へと沿線が拡がっている。

「竹博士」の異名をもつ室井さんによると「伯耆大山と小豆島が爆発してその火山灰がうまく残っ

神鉄沿線でも鈴蘭台付近は新興住宅地として開けつつある。写真は西田さんが菊水山から撮ったもの



神戸新聞に載った湊川一有馬間開通広告(昭和3年11月27日付)ちなみに料金は大人50銭 小人25銭

片道賃金
湊川一有馬

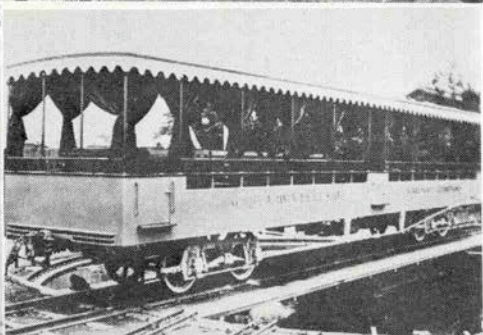
十一月廿八日

神戸有馬間電車開通

分十五 間馬有ニ川湊

三田 北六甲 小部 湊川 有馬

社合式株道鐵氣電馬有戸神



昭和4年から湊川一有馬間を観光展望車が走った。これは窓にガラスがなく雨の日は困ったためのちに改造車がつくられた

たのがこの沿線で学問上からいっても仲々貴重なフィールドですね。狭い地域でこれだけ特産の植物があつたり、南と北の植物分布がハッキリと分れているところは他にないですよ」

たとえば、ウマノスズクサ、有馬グミ、志染オモタカなどここだけにしかない植物も多く、植物好きの人には興味が尽きない。

静かな空よ 青い空
有馬いで湯の 香りのせ
春千菊は 花の雲
みのり豊かに 粟生の里
加古の流れに 心も清く
線路は光る われら神戸電鉄

創立五十周年記念として作られた神戸電鉄社歌(作詞/猪瀬敏弘・安田豊昭、補作/内海重典)にもこの沿線の自然の豊かさが誇らかに歌われている。

一方、文化財に造詣の深い名生さんとなるとこの沿線はまさに文化財の宝庫ということになる。特に箕谷駅から市バス衝原停留所に至る全長八・七キロのハイキングコース「山田の路」はその意味で圧巻であろう。

かつては「温泉と史蹟をゆく観光電車」というキャッチフレーズを使っていた神鉄の面目は今もって保たれているのである。

歴史のみどころ



箱木千年家

浄土寺（電鉄小野）

神鉄沿線で鎌倉時代の国宝や重要文化財がここほどまとまって簡単に見ることのできることはない。浄土堂（阿弥陀堂）、本尊阿弥陀三尊像（本造阿弥陀如来および両脇土立像）は国宝。本堂（薬師堂）は重文。

一条寺（電鉄北条）

平安時代の三重塔。聖徳太子と天台高僧図は国宝。阿弥陀如来坐像、聖観音立像など重文も多い。

下谷上の農村舞台（箕谷）

農村で芝居をするためや人形を舞わすために神社の境内に設けられた舞台で建築上や農村の民俗風習、祭儀を知る上でも重要な資料。焼失したが近く再建されると聞く。

山田文楽（箕谷駅より市バス福地）

人形浄瑠璃の首（かしら）は楠田菅治さんの家に残っている。創始者は実父の駒吉さん（竹本文楽）。現在、二十二個の首が残っているがいずれも阿波の徳島まで注文に出かけたもの。

無動寺（箕谷駅より市バス福地）

本堂には重文の仏像が五体も安置されているのは珍しい。本尊の大地如來、釈迦如來、阿弥陀如來、不動明王坐像、十一面観音立像といずれも藤原時代の作。箱木千年家（箕谷駅より市バス新原）年代は中世にまでさかのぼると思われ、古い民家としては珍しい存在。

善福寺（有馬温泉）

聖徳太子立像。鎌倉時代が安置されている。

湯泉神社（有馬温泉）

有馬温泉の守護神。

瑞法寺公園（有馬温泉）

口ぐらしの庭とも呼ばれ紅葉の美しきで有名。

たべものとおみやげ



ぶどう狩り

にじます

有馬温泉の妓ケ滝のすぐそばの有馬養鴨場のマス池では一年中つれる。

いちじ

三田線の二郷（二郷）、栄など有名ぶどう

栗生線恵比須駅北一キロの平井山の北方ふもとに丘陵に「三木市平井山観光ぶどう園」がある。

なし

広野ゴルフ場前駅の西側、抽出町小栗野（こくりの）シーズンには八月下旬から九月下旬

栗生線押部谷駅の「近江栗園」。

いも

栗生線押部谷駅の「近江栗園」。

緑を丘駅、栗原付近。シーズンには八月下旬から十一月上旬

まつたけ

三田線の五社、道場南口、三田付近。栗生線の木桶、栗、押部谷、三木、木村付近など

しいたけ

三田線道場南口駅下車「栗谷しいたけ園」

（おみやげ）

炭酸せんべい（有馬温泉）

約七十年前、三津繁松という人が有馬の天然湧出の炭酸水を用いてつくったせんべいがそのはまりで淡白でほろりのよい風味。

松茸昆布（有馬温泉）

松茸と昆布のつくだ煮。

有馬車・人形車

独特の美しさと可愛い人形で親しまれている。

竹細工（有馬温泉）

自然のままの素材な味がいい。花かご、虫とりかごからブローチ、ヘアピンなどの小物まで古い伝統を受けついで素晴らしい民芸品。

有馬車・人形車

独特の美しさと可愛い人形で親しまれている。

竹細工（有馬温泉）

自然のままの素材な味がいい。花かご、虫とりかごからブローチ、ヘアピンなどの小物まで古い伝統を受けついで素晴らしい民芸品。

有馬車・人形車

独特の美しさと可愛い人形で親しまれている。

四季のカレンダー



三田の百石踊奉納祭

一日二日 入初式（有馬温泉）

温泉を経済基盤にしている住民の奉恩感謝の伝統的正月行事。

一月十五日 性海寺鬼踊り（押部谷）

一日十九日 六条八幡宮の引山祭（箕谷）

弓引き、餅まきなど。

二月五日 無動寺の棒たたき（箕谷）

若王寺神社を中心に環境祭が始まり本堂の床板を生かした棒で鬼打ち、割れた棒の先に護符をはさんで家へ持ち帰り豊作家内安全を祈る。

二月十一日 多聞寺のお塔まつり（六甲登山口）

源平時代より続く「当」の受渡式で万民豊楽、法界平等利益を祈願する。

三月十八日 難岡山の弥生まつり（緑ヶ丘）

難岡山々腹の彦石、姫石をまつる裸神社で神女による剣の舞いと湯立ての神事など。

三月二十三日 山田文楽（箕谷）

山田文楽（箕谷）願いごとさら受験・就職・病氣・商売・結婚・失せ物など一つだけは必ずきいて下さると大評判。

五月二十三日 進学成就の大きなおしやもじが人目を引く。

春の大祭（有馬口） 進学成就の大きなおしやもじが人目を引く。

七月十七日 八日 本要寺の義民祭と三木宝蔵出陣し（電鉄三木） 延宝年間の三木の義人

林源兵衛と大西与三右衛門の法要。

十月十日 六条八幡神社、七社神社の流鏝馬（みぶきめ）（箕谷） 伽耶院の大護摩（恵比須） 修験僧による奥義の問答、大護摩（恵比須）

十一月二日、三日 有馬大茶会（有馬温泉）

表・裏千家が隔年交替奉仕の献茶式を行う。

十一月二十三日 駒子佐八神社の百石踊奉納祭（三田） 百石踊りは雨二日の行事で、

県指定無形文化財。

県指定無形文化財。

県指定無形文化財。

県指定無形文化財。

県指定無形文化財。

県指定無形文化財。

県指定無形文化財。

県指定無形文化財。

県指定無形文化財。

県指定無形文化財。

県指定無形文化財。

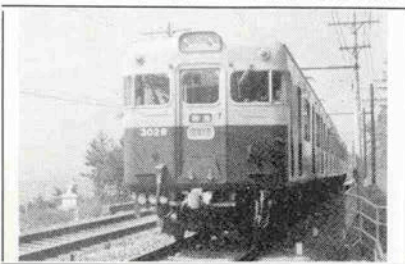
県指定無形文化財。

県指定無形文化財。

県指定無形文化財。

県指定無形文化財。

●特集 私鉄沿線物語



山陽電鉄 海をながめ 物語を乗せ

「蝸牛角ふり分けよ須磨明石」

(芭蕉)。古くから多くの文人墨客によまれた風光明媚な山陽道。源平の合戦あるいは戦国の武将が、駆けめぐる山陽道。親子づれで魚釣り海水浴を楽しむのどかな山陽道。その山陽道を東から西へ走りつづけて七十年、海岸線沿いに西代から名城の地姫路まで我々を運んでくれるのが山陽電車なのです。

まずはその誕生の時の話から。兵庫電気軌道(山陽電鉄の前身)が生まれようとする胎動は明治39年にさかのぼる。日露戦争戦勝に沸きたつ中のことである。「兵庫電気鉄道敷設許可申請書」が発起人総代柏木庄兵衛氏から時の内務大臣に提出。さらに半年後に再度の特許申請書が提出され明治39年11月29日に兵庫・明石間電鉄許可の命令書が交付されたのだ。そし

て明治40年7月会社設立、待望の

第一期線(兵庫・須磨間)の開業を明治43月3月15日に迎えたのだ

った。「兵庫電軌の第一期線兵庫・須磨間は愈々今15日から開業し

初めて市の西部に電車の運転を見る事となった。開業の当日は特に

午前9時から運転を開始するのであるが、明日以後は毎日午前6時

から午後11時まで運転し、兵庫、須磨の起終点を5分間隔を保ちて

発車する。其れで兵庫から須磨に到着するのは16分間の予定である

(略)」と当時の神戸又新日報は伝えている。ちなみに兵庫須磨間は

兵庫、長田、西代、板宿、大手、月見山、須磨寺、須磨の8駅。全

線2区制の区間運賃で普通運賃は一区3銭、2区5銭であったとい

う。

時は流れて昭和43年月神戸高速鉄道(株)の営業開始に伴い阪急・

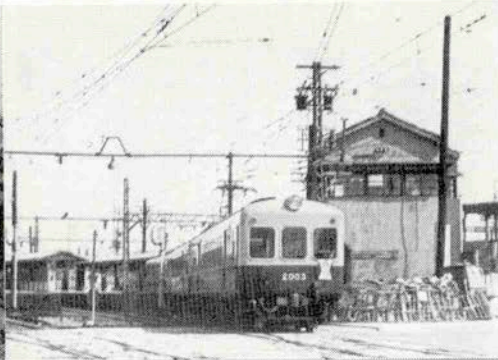
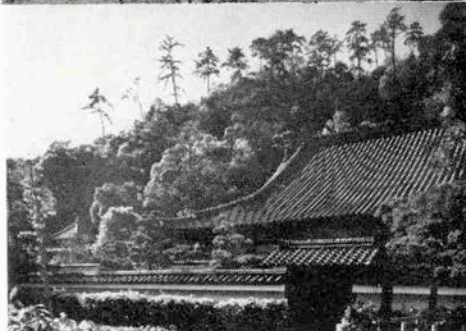
阪神との相互乗入れ運転が開始され兵庫西代間が約58年の歴史閉じ同時に兵庫、長田両駅も整理されることになりそして現在に至っている。

さて、山陽電車の特徴は、その駅名の美しいことと、四季折々の歳時の多彩さと、名勝歴史の足跡を結んでいるということがあげられよう。月見山、須磨、塩屋、滝の茶屋、霞ヶ丘、舞子、大蔵谷、明石、江井ヶ島、浜の宮、尾上の松、高砂、白浜の宮、飾磨、網干、姫路……と、それぞれが歴史のロマンや町の成り立ち(例えば海に由縁するとか)などから自然発生的に生じた名前であることが、最近の世相として増えつつある画一的な駅名町名たちの中に、とてもうれしいことだと思う。あの、柴式部の書いた源氏物語の須磨、明石……もつとも沿線のたつづまい

ロープウェイで結ばれ
山上に遊園
設備がある
鉢伏山。こ
こからの海
も素晴らしい



紅葉の季節
には神戸市
内?と思わ
せる禅昌寺



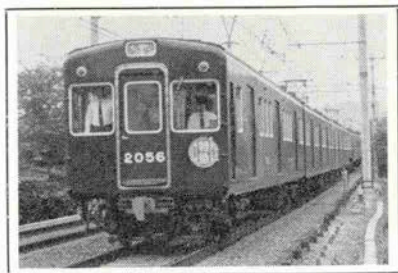
昭和43年さ
よなら電車
が走る旧兵
庫駅



エキゾチック神戸の味
わい移情閣
は舞子の海
と加味され
神戸の点景

は白砂青松を唄われた当時とは、
とてもとても変わってしまったて
るけれど。塩屋に並ぶ異人館も北
野の異人館とちよつと違ふのは海
のせい? 私たちはこのぜいたく
な例えば鉢伏山に登れば三百六〇
度視界が開け瀬戸内の海が、淡路
が、神戸がという環境に慣れすぎ
てしまつてのかもしれない。そ
の自然の恩恵と沿線氣質を「須磨
のお大師さん」と親しまれ毎20・
21日のお大師さんの日には善男善
女でにぎわう須磨寺の小池義人住
職は「明治四三年にサンデンが開
通したのも須磨寺詣をねらつてい
たのですから縁深い。須磨寺公
園遊園地を電鉄で創つたのはパイ
オニアですな。須磨寺は、建立千
百年の歴史がある真言宗の寺で、
20日、21日は弘法大師のご命日と
あつてご利益をうけて沢山の人々
がお詣りされます。ことに最近
は現役のみセスが増えました。青葉
の笛や須磨琴も人気があります
し、2年前から始つた青空市もぜ
ったい安いと評判。須磨寺は桜の
頃から新緑がことのほか美しいで
すよ」と語る。庶民の足、昔は釣
電車も走つたという行楽の足、当
節流行のアウトドアライフを楽し
める自然を残した町を走る足、そ
して歴史と物語の町を走るサンデ
ンはやっぱり「わが町」の電車で
すね。

●特集 私鉄沿線物語



明治四十三年三月十日、箕面有馬電気軌道が開業。現在の「阪急電車」宝塚線である。この「最も有望なる電車」は、梅田—宝塚間24・9キロ、石橋—箕面間4キロを走った。

大正九年七月十六日、神戸線が開通。その当時の新聞広告にはこうある。——奇麗で早うて、ガラアキ。眺めの素敵により涼しい電車——

「阪急」の発展は、郊外電車としてその沿線開発とともにあった。「阪急」の育ての親、小林一三は宝塚新温泉を開き(明治四十四年)現在の宝塚歌劇の前身である「少女唱歌隊」を、当時人気を呼んでいた三越の少年音楽隊をまねて大正二年に組織した。翌三年四月、婚礼博覧会の余興として「ドンブラコ」浮かれ達磨」などを演じたのが第一回の公演で、昭和二年に

阪急 街づくりと客筋の良さ

＜話を伺った人々＞



織田喜久子さん
＜詩人＞



熊野紀一さん
＜宝塚音楽学校
校長＞

は日本最初のレビューといわれる「モン・パリー」を上演。爆発的な人気を呼び、その主題歌は日本全国にひろがった。今から五十年前のことである。

同時に小林一三は沿線に住宅地を造り——如何なる土地を選ばべきか。如何なる家屋に住むべきか——と宣伝。大阪市民を郊外に住むことを誘った。「阪急沿線に住んでいる」ということが、大衆の一種のエリート意識であった。沿線に住宅地を開発して乗客を誘致する、これは大衆を相手にする小林一三の商法のひとつであり、これに成功した小林一三は、大手私鉄十四社中トップの位置を占める東京急行電鉄の生みの親、五島慶太氏にも、土地で儲けてから鉄道建設に進むことを説いたという話さえ残っている。

小林一三は、このような事業家

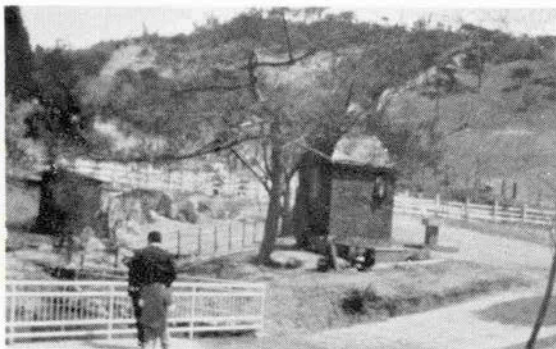
としての第一歩を踏みだし、百貨店、分譲住宅、映画、演劇と卓抜なアイデアを発揮した。この小林一三の精神が現在の「阪急」に受け継がれ、あらゆる点に大衆相手の商法が表われている。

ところで神戸っ子としては阪急沿線のなかでも、三宮駅を起点に神戸線を東に、西宮北口駅へ。そして今津線に乗りかえて宝塚駅まで乗ってみよう。

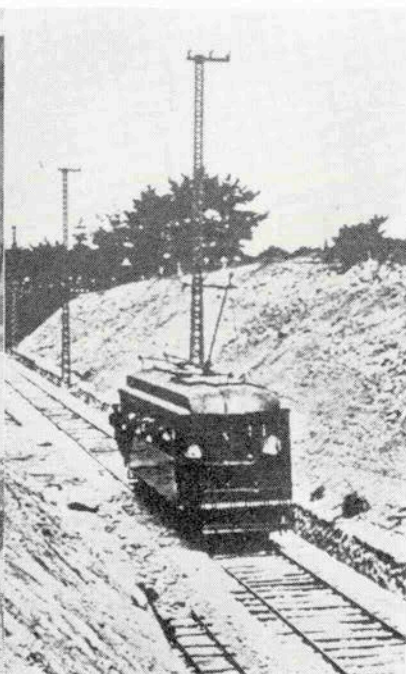
まず三宮から西宮北口間の各駅周辺。

老若男女を問わず阪急電車の客筋のよさは定評あるが、特にこの線上は数ある関西の私鉄のなかで最も美人が多いといわれているらしい。六甲、岡本、芦屋川、夙川各駅周辺は今や発展途上の街。駅前の小さなタウンにはファッションナブルな店があり、ケーキ屋さんがあり、喫茶店がある。どの店も

六甲山牧場
には新鮮な
ミルク



女の子のあ
こがれたカ
ラズカ。花
のみに面
したプラザ

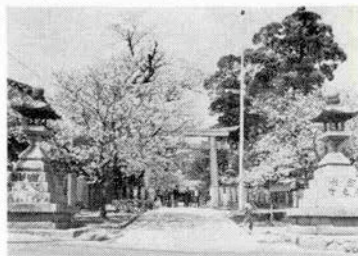


大正10年に
西宝線（現
在の今津
線）が開
通。

とってもユニークでなんとなく楽しくなってくる。夙川駅から甲陽線に乗りかえての苦楽園口、甲陽園各駅のかつての郊外住宅街も今急に街として開けてきた。西宮北口駅周辺も再開発地域。宝塚、宝塚南口、逆瀬川もファッショナブルタウンに変貌しつつあり、わざわざ出かけていく若者が多い。とにかく若者の街の“点”をつないだのが阪急のこの“線”である。つまり、この沿線には学園が多く存在している。松蔭、海星、神戸大、神戸外大、神戸女子薬大、甲南大、甲南女子大、夙川学院、関西学院、神戸女学院、聖和女子大、小林聖心、そして宝塚音楽学校。数えればキリがない。

なるほど学園都市を結び、兵庫県立近代美術館、白鶴美術館、小原流芸術参考館、香雪美術館、滴翠美術館、顕川美術館、甲山森林公園の彫刻の森、と芸術の泉を点在させ、宝塚ファミリランド、仁川ピクニックセンター、仁川フイールドアスレチック、国立公園六甲などを背後にしてアウトドアライフを充足させる。何とも健康的な生活を神戸っ子に提供してくれる。そういえば最近の宣伝文にはこうある。——ゆとりある生活を演出する阪急グループ——そして——人と自然をもっとも便利に結ぶ阪急電車——と。

歴史の見どころ



弓弦羽神社

船寺神社ハ西遷▼

平安時代、祭神は応神天皇、天照大神、春日大神をまつる。

保久良神社ハ開本▼

名木指定されたやまももの巨樹に包まれた白い鳥居。周辺からは石器や銅器が出土した。境内の常夜灯は、昔津を通る船の標識であった。

阿保親王墓ハ厩屋川▼

在原業平の父阿保親王の墓。古式の円墳。径約三十六メートル。元禄四年（一六九二）陵域改修の際、三角縁神獸鏡が出土。

門戸厄神ハ門戸厄神▼

松森東光寺、通称門戸厄神。

甲山・神呪寺ハ仁川▼

淳和天皇の妃、如意尼により弁財天のほか三所権言が祀られた真言宗の名寺。通称お大師さん。秘仏如意輪観音は毎年五月十八日だけ拝観できる。

伊和志津神社ハ逆瀬川▼

いかにも古代にきたようなうっそうと繁る森林に囲まれる、聖林として無暗に人を入れない神域だったのである。

清荒神ハ清荒神▼

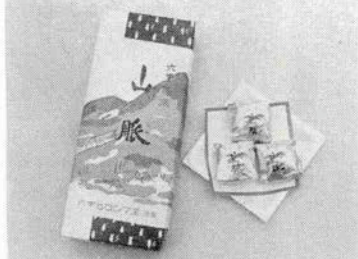
カマドの神様で、台所の棚の上に置く布袋さんが七段階に分かれた。水商売の人がお詣りにくる。富岡鉄斎美術も併設。

中山観音ハ中山▼

西国三十三カ所所第二十四番札所で、安産守護で有名な星下りの祭りで知られ、庭園も美しい弓弦羽神社ハ御影▼

御影村の氏神。神功皇后が三韓征伐に出陣する時、この社で弓弦の調子を調べるという弓弦がよく鳴り、弓弦羽の名が生まれたという伝説がある。

たべものとおみやげ



山原

づかつ子ハ宝塚▼

箱に小さな熊がずり。愛らしくて、いかにも宝塚歌劇の初舞台生初々しいロケッダンを連想させる。餅米と砂糖と水アメをあわせてやわらかい半透明の餅。

宝乙女ハ宝塚▼

タカラジェンヌから名付けられた。ソフトな甘味の餅に香り高いきな粉をまぶし、気品ある風味。まさに乙女を思わせるようなやさしくつつまい味わいがツカファンの舌をとらえている。

宝泉炭酸せんべいハ宝塚▼

宝塚、有馬での観光名産品として有名。軽い歯ざわりと現代向けの味。

昆布と山菜の佃煮ハ清荒神▼

昔ながらのたんねな味が、手づくりの粋がある。風味と香りを大切に、日本の味本筋をふまえている。

松茸昆布ハ清荒神▼

丹波からとりよせた松茸と、北海道の極上昆布。厳選された材料のとりあわせが深い味わいを生みだしている。

花山椒ハ清荒神▼

つつましい香りと忘れられないやわらかな風味。熱いごはんにまぶして食べるぜいたくさは格別。

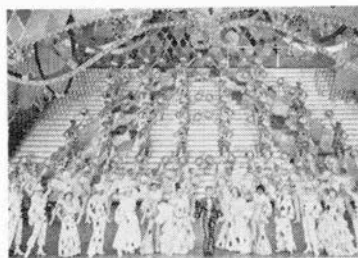
山椒（やまなみ）ハ六甲道▼

もちろん六甲山にちなんだ名前。六甲の山椒を形どった皮に、六甲の持つ雄大さを優しさをも兼ね備えた味をもつ。

六甲時雨ハ西遷▼

六甲山を形どった上に白い砂糖の糸の時雨、皮にたっぷり使われている牛乳は六甲牧場からとり寄せている新鮮な牛乳。

四季のカレンダー



宝塚歌劇

宝塚歌劇

日本最初のレビュ「モン・パリー」初演から五十年。その記念公演として宝塚ならではの「ザ・レビュ」（監修／白井鐵造、構成・演出／横沢秀雄、岡田敏二、草野旦。ツカファンに愛唱された懐しの名曲五十曲のメドレーなど三部構成で約時間十五分のステージ。雪組／七月一日・八月九日、花組／八月十一日・九月十七日

西宮球場

六月十八日（土）八南天十九日▼

第十七回2000人の吹奏楽

構成・演出／内海重典、合同演奏／花火と第九シンフォニー、指揮／鈴木竹男

前売券・三〇〇円 当日券・四〇〇円

七月二十四日（日）

オールスターゲーム第2戦

宝塚花火大会

毎年八月一日、二日に開催されるが近頃、いろいろなる事情から縮小気味。

清荒神

初三至（二月十七、二十八日）

納め三至（十一月十七、二十八日）

門戸厄神

厄除大祭（二月十八、十九日）

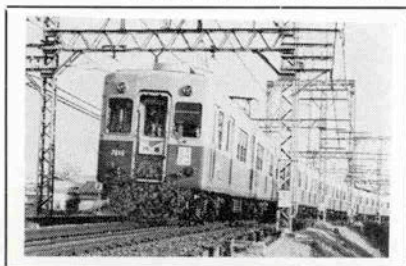
桜の名所

宝塚ファミリーランド、甲山神呪寺、夙川公園、仁川ビクニックセンター、岡本駅付近、王子動物園 御影、深田池など。

六甲のあじさい

神戸市の花あじさいは各地でみられるが、六甲の一面に広がるあじさいは在観。そして下界よりも少し時期がおくれて咲き競う。

●特集 私鉄沿線物語



阪神電鉄の社章は、レールの断面を稲妻で囲んだ電気鉄道そのものを象徴している。日本で最初の本式電車として、また大都市、大阪・神戸を結んだ交通機関として多くの意義をもっている。

明治26年から発起されていた摂津電気鉄道が社名を改称し、明治38年4月12日に初めて神戸（三宮）・大阪（出入橋）間を阪神が走った。その後大正3年8月に北大阪線、15年7月には甲子園線と次第に拡張の歩みをたどる。

開通当時の模様を西宮神社名譽宮司の吉井良尚氏に尋ねてみた。『待たずに乗れる阪神電車』というキャッチフレーズと共に開通した時、吉井さんは16才の学生、沿道の住民はゴザや弁当を持って停留所に行き、電車見物をしていたという。郊野の真ん中を走っているので電車の周り一面は菜の花畑、

阪神 電鉄

歴史を見る 下町の足

〈話を伺った方々〉



吉井貞俊さん
〈西宮文化協会
事務局長〉



浅田柳一さん
〈随筆家〉



吉井良尚さん
〈西宮神社
名誉宮司〉

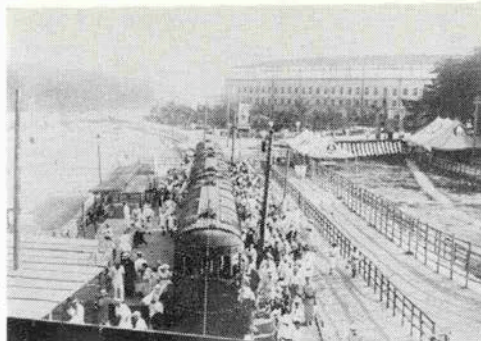
車内には花の香りがブーンと漂い、真黄色のそれは美しい風景だった。ただし、雨の日は運転手はドアもなく吹きさらしで合羽を着て大変だった。西宮からは大阪へも神戸へも十銭で、ぜいたく物ということで一銭の通行税がついていた。運転手や車掌はキチンとした制服にピカピカの帽子をかぶり、そのりりしい姿は若い女の子の憧れの的であつたらしい。

阪神は開業以来好成绩で電鉄ブームが勃興し南海、京阪、阪急、近鉄、山陽などが相次ぎ開業する。沿線開発もこのころから盛んになり、中でも明治41年に開設された。香櫨園は大規模で画期的なものであつたようだ。約10万坪の山野に香野蔵治、櫨山喜一両氏が開発し、阪神も応援して大旅館、動物園、博物館、音楽堂、運動場を設けた楽園地を作り大変な評判だった。

阪神間唯一の人寄せの場には、池にウオーターシュートも設けられ43年10月には日本初の早稲田大学と米国シカゴ大学の野球試合も行なわれ、当時野球ルールを知っている人は少なかったが、恐ろしいほどの人出だった。この大遊園地も市民のレジャーとしては早すぎたのか、衰退に傾き現在では跡形も無くなり香櫨園の駅名だけが残っている。阪神沿線、ことに三宮・甲子園間ぐらいに絞ると、甲子園球場は大正13年8月に関東大震災の後、武庫川の枝川跡に埋め立てられ、第10回中学野球大会から始められた。因にこの名は昔の暦により甲子からつけられた。

西宮戎神社は十日戎、商売繁盛の神様で知られ1月9、10、11日の3日間は駅前から参道や境内に露店商が並び毎年約百万人の人出で賑わう。

当時の甲子園線・甲子園停留場



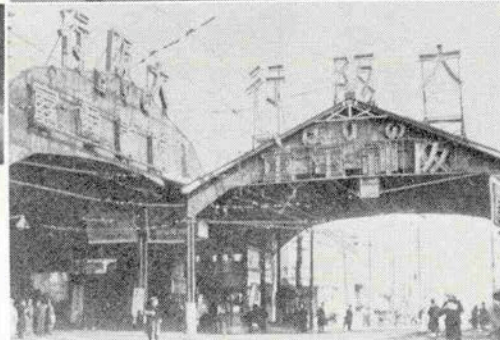
夏の風物詩
甲子園のナイター



阪神パーク
造波プール



開業当時の
神戸(三宮)
停留場
(M39)



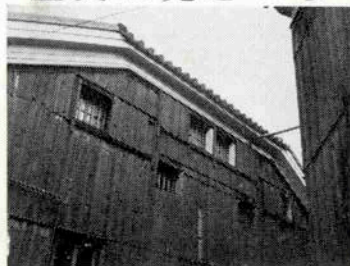
滝道へ進出
左が、新停
留場
(右、神戸
電鉄線)

西宮から魚崎へは灘五郷として全国的に名の轟いた酒処である。灘の生一本といえ左党には目がない。「酒都歳時記」の筆者、浅田柳一さんは文学青年時代、現西宮東口北側、市役所の側に位置する「京楽」という割烹で故谷崎潤一郎氏らとよく飲み談笑したということだ。酒蔵から直結された「日本盛」に杯を重ね喉を潤したという。

鳴尾、香櫛園の浜は阪神間随一の海水浴場として賑い、明治45年6月には水上飛行機の水上滑走から舞い上がり、香櫛園浜の砲台では電気をつけてビアホールを設け、涼みながらビールを飲むようなことがモダンだったらしい。今では海水浴場も全て廃止された。戦後甲子園阪神パークがつくれ、レオポンでその名は広まり、春の博覧会、夏のデラックスプール、秋の大菊人形、冬のアイススケートと四季を通じて楽しめる。阪神電鉄では御影駅からバス、六甲ケーブルというコースで直営の山上のレジャーランド六甲山カントリーハウスにも力を入れている。六甲高山植物園では四季の草花と自然を満喫できる。

阪神電車の特徴として腕曲が多いのは民家の間を縫って走っているからで、乗客に感じられるのは気取りのない下町気質だ。

歴史の見どころ



古いたたずまいを残す魚崎の酒蔵

西宮戎神社（西宮駅下車）

平安末期に建立された古い歴史をもつ、大漁、海の神様を祭った神社。周囲は今も門前町の風情を残し、十日戎には商売繁盛を祈願して毎年百万人の人出で賑わう。

芦屋市立図書館（打出駅下車山側）

もと大阪にあった金満家の旧邸の倉を芦屋市が買い取って改造し、図書館を開設した。裏に趣きのある立派な庭がついている。道を隔てて、境内に神宮寺をもつ打出天神社がある。

めえ塚（芦屋駅下車）

めえとは、京都二条院に住んでいた顔はサル体はタヌキ、手足はトウ、尾はヘビという怪物で、源頼朝に退治されてこの芦屋浜に打ち寄せられたという。周囲は美しい松林で川畔から眺めた山並みの景色もよく、気持ち良い散歩道が続く。

昌林寺（西宮東口下車）

津門神社と隣りあわせて、境内に源氏の遠祖といわれる源満仲公の一子、美丈丸の弟、大江山の鬼退治で有名な頼光、渡辺ノ網の繁、坂田金時手植の松まど揃っている。本堂には重要文化財に指定されている善導上人の坐像が安置されている。

菊正宗酒造記念館（魚崎駅下車）

酒造として有名な灘五郷、質のよい宮水と六甲おろしの冷たい風土質によって銘酒の生一本ができる。その老舗、菊正宗の酒蔵がそのまま保存され、昔から伝わる酒造用器具、小道具類が展示されている。

大谷記念美術館（香櫨園下車）

昭和47年大谷次郎氏から西宮市に寄贈された芸術文化センターの美術館。今月26日まで「現代彫刻を見る……展」を開催中。

たべものとおみやげ



ティータイムにアリのクレープを

アンリ・シャルバンティエ（洋菓子）

あっさりとした上品なケーキは人気抜群。レアチーズケーキなんて舌がとろけそう。ティールームは生花がふんだんに飾られ気持ち良い。芦屋駅下車山側。

御影食園（焼肉）

焼肉専門に10年。遠方からのお客さんも多い。うまきの秘伝はもろろ肉の質とタレです。石屋川駅下車二号線沿い。

菊久（お好焼）

数多いお好焼屋さんの中でも味は格別。香濃風下車浜側。

ふくさ屋（和菓子）

白あんの中に抹茶を入れて焼きあげた「芦屋の香」は、甘さが残らず口もちする、お茶受け用菓子として工夫された味。打出駅下車浜側。

虎屋吉米（和菓子）

創業百五十年、現在六代目という古い伝統をもつ和菓子屋。丁稚定業、焼形煎餅、夫婦酒饅頭などが自慢の味です。御影駅下車浜側。開業して三十二年目という欧風料理の店。この間まると清潔で、ロールケーキなどの懐かしい味が良い。西宮駅下車南東。

次郎長寿司（寿司）

わたしの新鮮さとし飯には定評がある。仕出もしてくれる。芦屋駅浜側。

のぐち（うどん）

しつこく歯ごたえのある手打うどんが美味く、いつも賑わっている。西宮駅山側。

高嶋酒造食品（甲南漬）

奈良漬から独特の製法と酒粕、みりんを使っている銘品。ノスタルジックな建物が目えてく。お土産に最適。新在家駅南東。

四季のカレンダー



商売繁盛で笹もってこい（戎さん）

△春△

甲子園球場セブンズ高校野球 3月27日
セリグ公式戦開幕 4月上旬
西宮桜祭り（西宮市観光協会主催） 4月1日～20日

△夏△

阪神パーク夏の催物 3月中旬～6月中旬
（日本で唯一の大型遊戯施設「ジェットスターII」新登場バツグンの面白さ）
生田神社春まつり 4月14、15、16日
甲子園植木まつり 4月中旬
本住吉神社だんじり祭り 5月5日

△秋△

西宮戎神社おこしきまつり（ゆかたまつり） 6月14日
阪神パークデラックスアップル（ナイターは7月初旬～8月中旬） 6月中旬
夏の甲子園野球大会 8月3日～6日
長田神社・華能 8月1、2日

△冬△

阪神パーク・菊人形展 9月中旬～10月中旬
西宮神社秋まつり 9月21、22日
生田神社秋まつり 9月19日～22日
社会人野球日本選手権大会 10月下旬
西宮神社戎市 11月23日

△新年△

甲子園ボール（甲子園球場） 12月中旬
（東西大よりアメリカンフットボール日本一決定戦）
六甲山人ススキー場オープン 12月中旬
（阪神御影祭りバス） 1月9、10、11日
十日戎（西宮神社） 1月21日
甲山初大師（阪神西宮より阪神電鉄バス） 2月3日

西宮神社・生田神社節分



東京

池袋バルコ店

東京都豊島区南池袋一丁目二八二

電話 〇三九八七〇五六一(直)

日本橋東急店

東京都中央区日本橋通一丁目九二

電話 〇三二二一〇五一(代)

渋谷東急店

東京都渋谷区道玄坂二丁目二四一

電話 〇三四七七三四〇九(直)

銀座コア店

東京都中央区銀座五丁目八一〇

電話 〇三五七三二五二九八(代)

神戸

本部・仕入
さんちか店

神戸市東灘区青木五丁目一五〇
市街地改造により工事中 昭和五十二年未定
神戸市生田区三宮町一丁目一
電話 〇七八三三三二一七〇〇

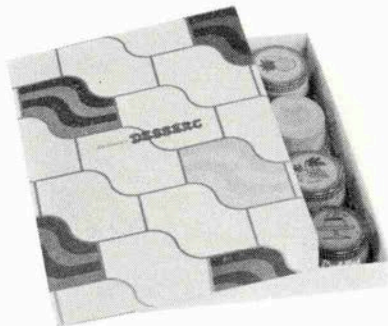
電話 〇七八四五一五二九〇(代)

きもの
と
細貨

おんがら屋

5℃の風

ユーハイム デザート



このマークのお店でお買い求め下さい

本店	神戸市生田区下山手通 2-31	TEL (078)331-1694
三宮店	神戸市生田区三宮町 3-15	TEL (078)331-2101
さんちか店	神戸市生田区三宮町 1-1	TEL (078)391-3539
西ドイツ本店	フランクフルト・アム・マイン・アム・ザルツハウス 1	
	ゲートハウス内	TEL (0611)280262-3